



# Authoring Studio II

## ご使用の手引き [v9.0]

(基本編－3)



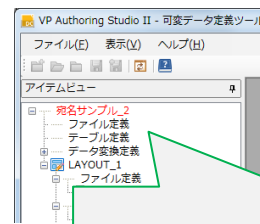
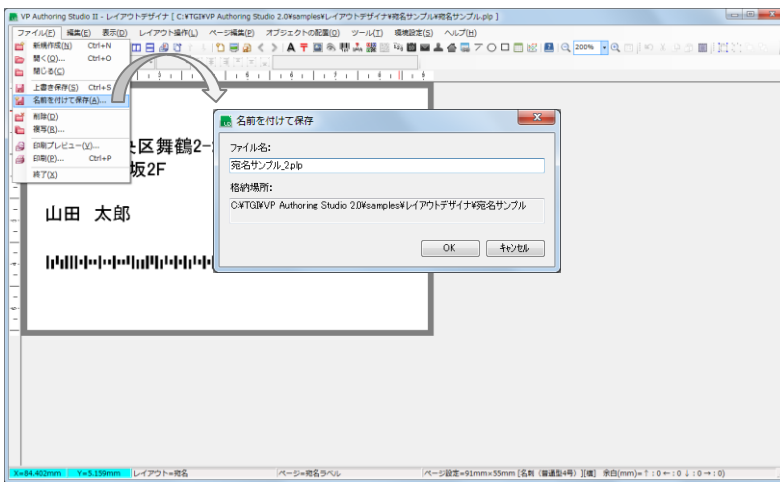
テキスト・アンド・グラフィクス 株式会社

## < 目次 >

1. プロジェクトの別名保存	1
2. プロジェクトの複写	1
3. レイアウトページの追加	2
4. レイアウトオブジェクト	3
(1) 表オブジェクト	
(2) リッチテキストオブジェクト	
(3) バリアブルチャートオブジェクト	
(4) イメージバリアブルオブジェクト	
(5) 図形（楕円、四角形、罫線）オブジェクト	
5. グループ面付け	8
(1) 入力ファイルの1レコードを1ページに印字する（1ページ＝単一レコード構成）	
(2) 入力ファイルの複数レコードを1ページに印字する（1ページ＝複数レコード構成）	
6. PDF分割方法	15
(1) ページ数での分割	
(2) 入力ファイル別に分割	
(3) フィールド値を参照した分割	

## 1. プロジェクトの別名保存

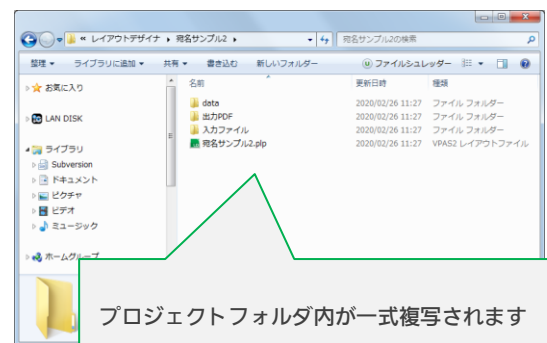
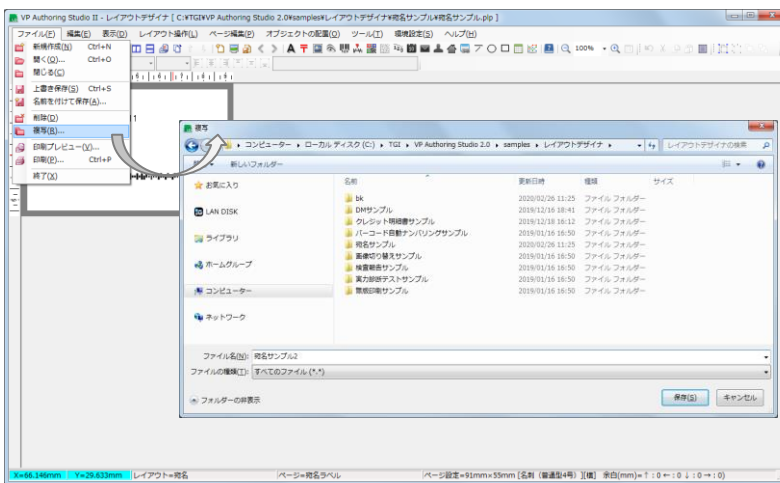
現在開いている plp ファイルを別名で保存し管理できます。別名で保存すると plp ファイル名、プロジェクト名が更新されます。



ファイル名、プロジェクト名が更新されます

## 2. プロジェクトの複写

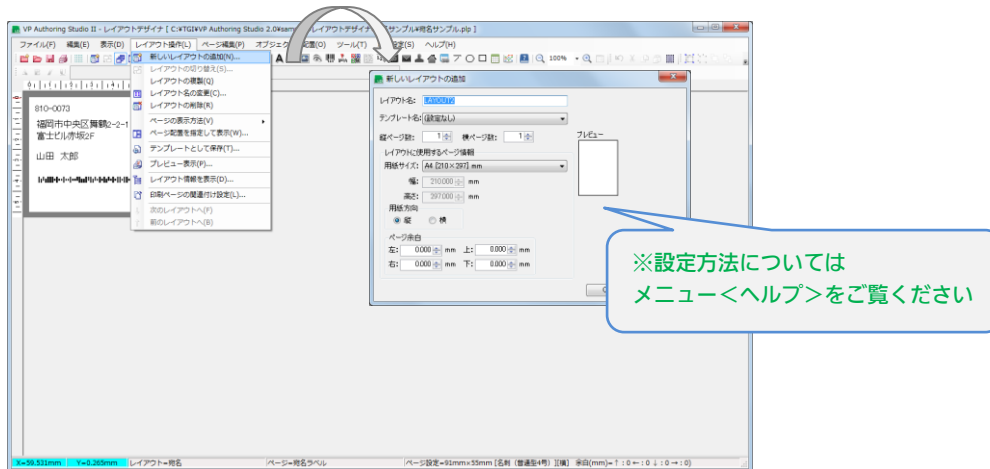
現在開いている plp ファイルのプロジェクトをフォルダごと複写しプロジェクトを別に管理できます。複写されるのはプロジェクトフォルダ内の全てのフォルダ、ファイルになります。



プロジェクトフォルダ内が一式複写されます

### 3. レイアウトページの追加

VPAS2では複数のレイアウトを1つのplpファイル内に構築することができます。そのためページレイアウトが異なる帳票を1つのplpファイル内で管理することができます。

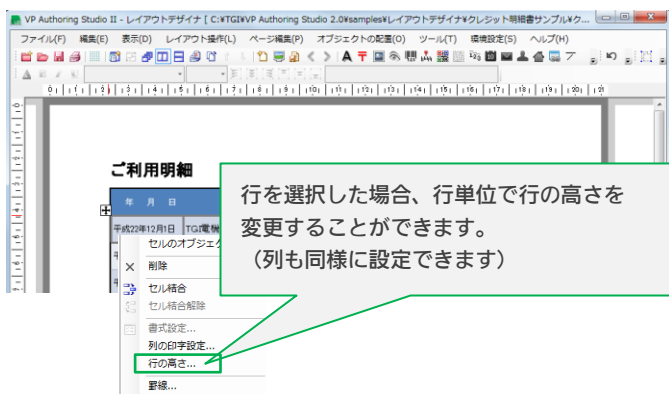
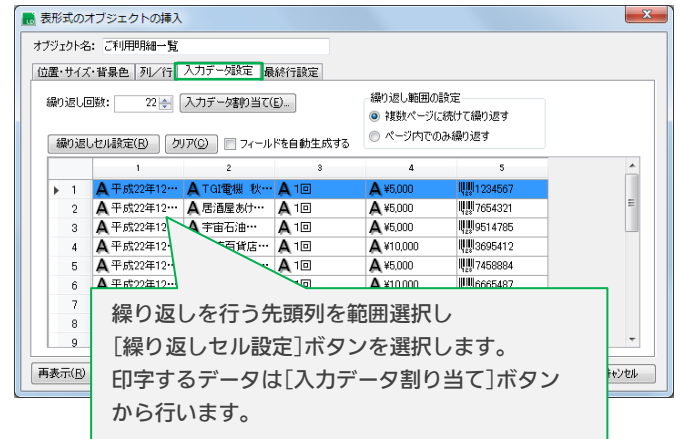
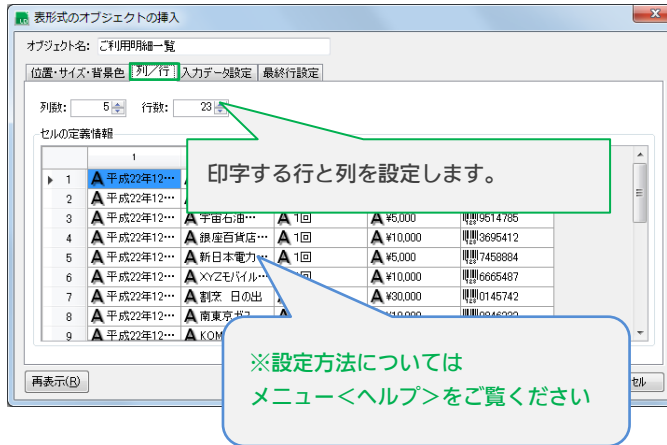


## 4. レイアウトオブジェクト

ここでは、レイアウトで使用する高度な機能を持つオブジェクトの基本的な操作について説明します。

### (1) 表オブジェクト

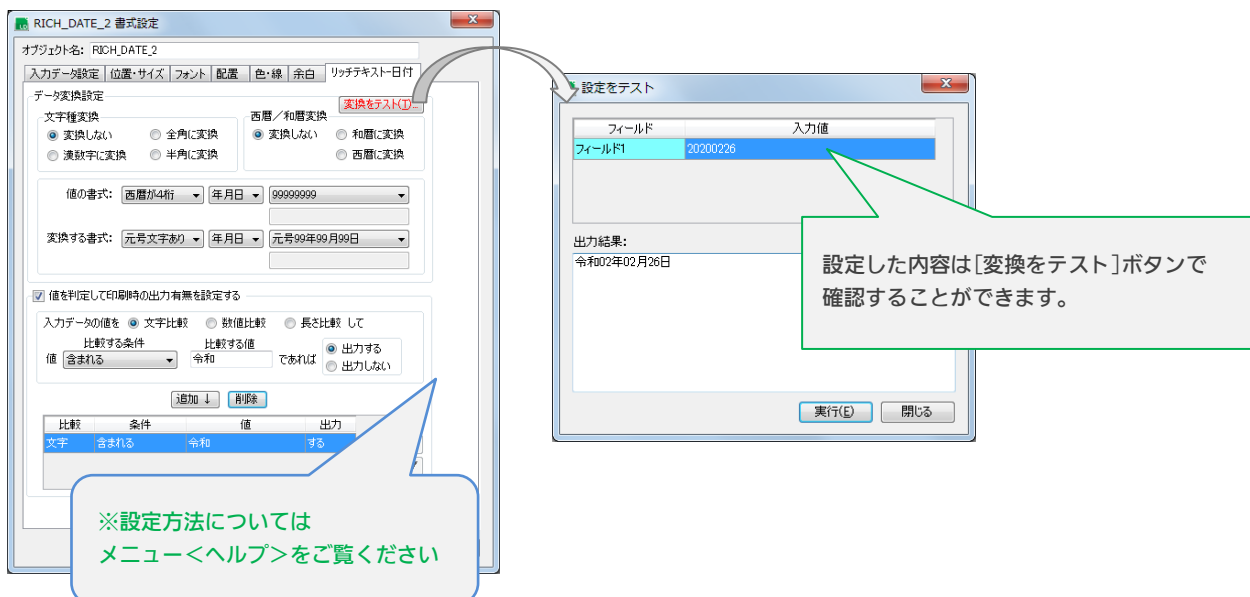
表オブジェクトでは繰り返し印字する明細などの印字を設定することができます。



### (2) リッチテキストオブジェクト ※このオブジェクトはオプション機能となります

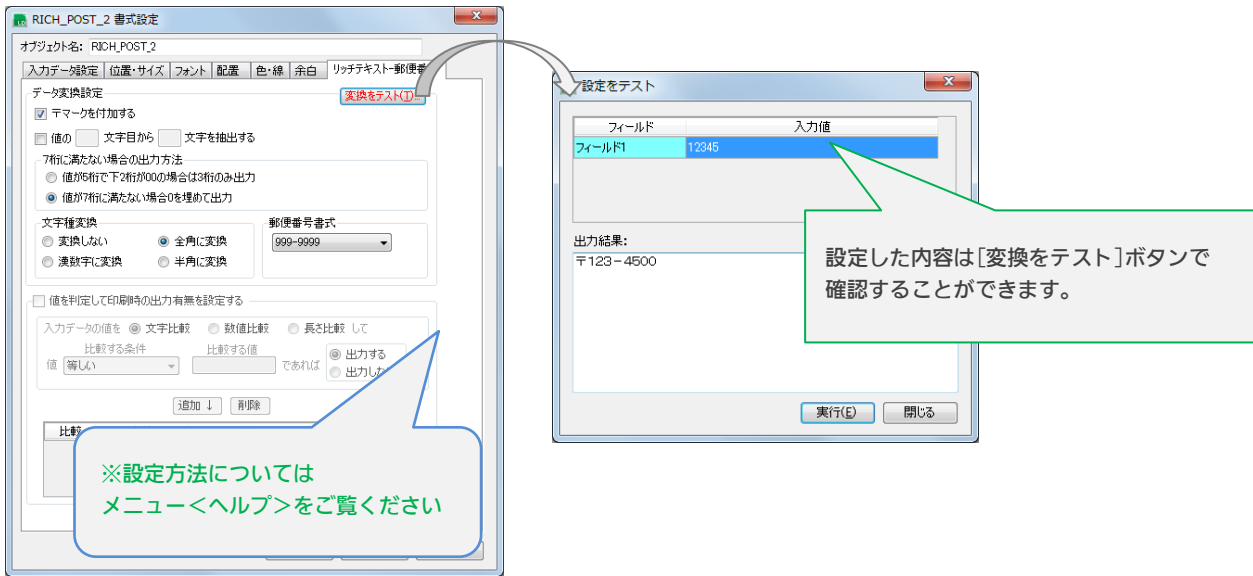
#### ・日付オブジェクト

日付オブジェクトでは日付の書式変換、印字する条件の設定ができます。



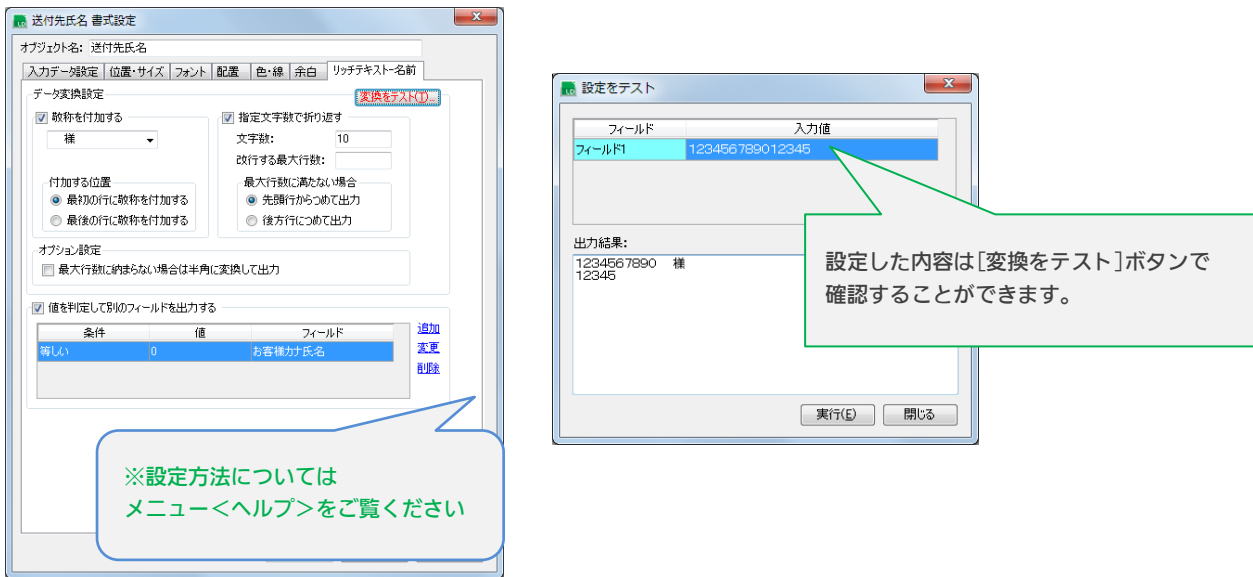
・郵便番号オブジェクト

郵便番号オブジェクトでは郵便番号の書式・文字種の変換、印字する条件の設定ができます。



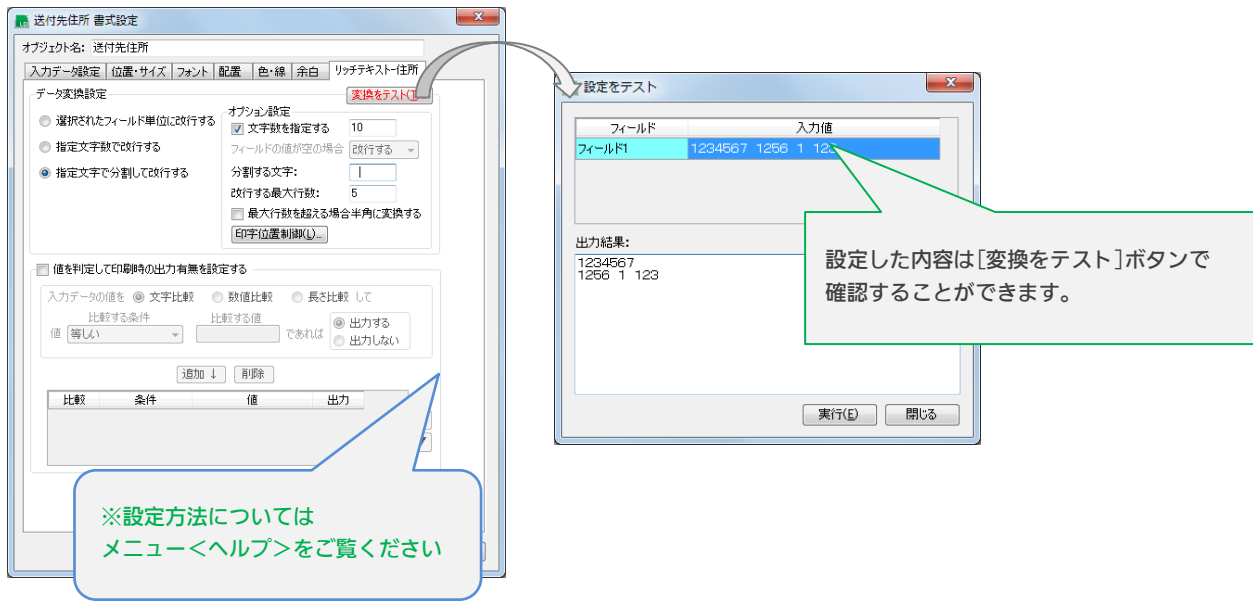
・名前オブジェクト

名前オブジェクトでは敬称の付加や印字の制御、条件に応じて印字するフィールドの設定ができます。

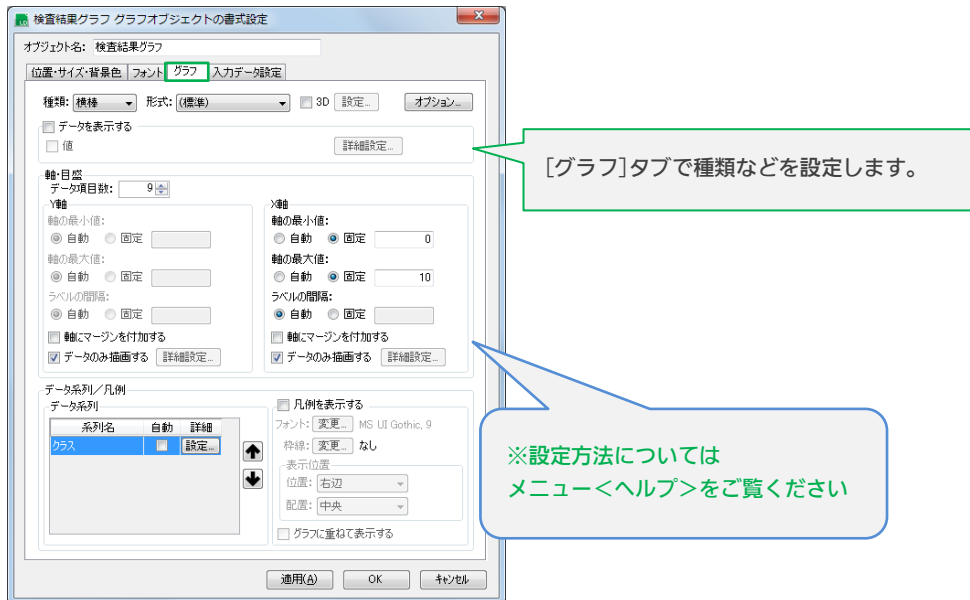


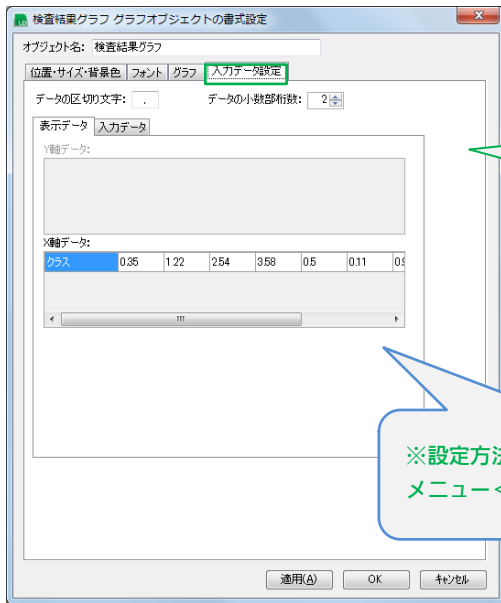
・住所オブジェクト

住所オブジェクトでは印字の制御や条件判定印字の設定ができます。



(3) パリアブルチャートオブジェクト ※このオブジェクトはオプション機能となります  
 パリアブルチャートではデータを元にグラフィメージを作成できます。  
 ここでは、横棒グラフの設定を説明いたします。

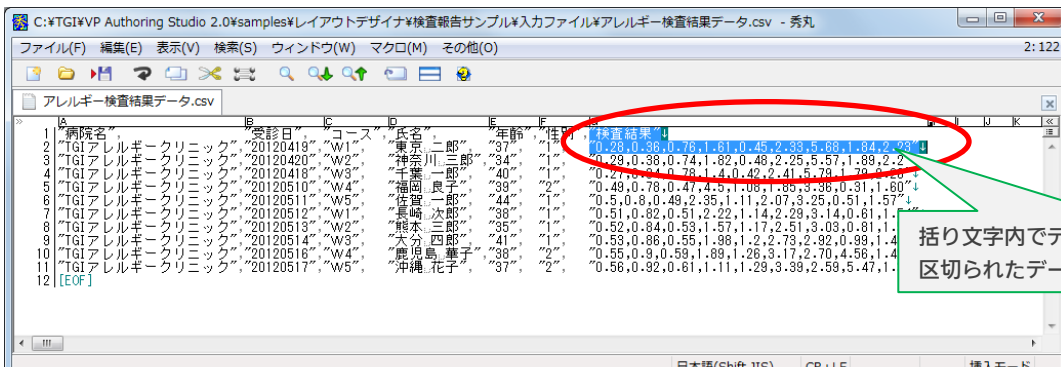




[入力データ設定]タブでデータ設定します。

※設定方法については  
メニュー<ヘルプ>をご覧ください

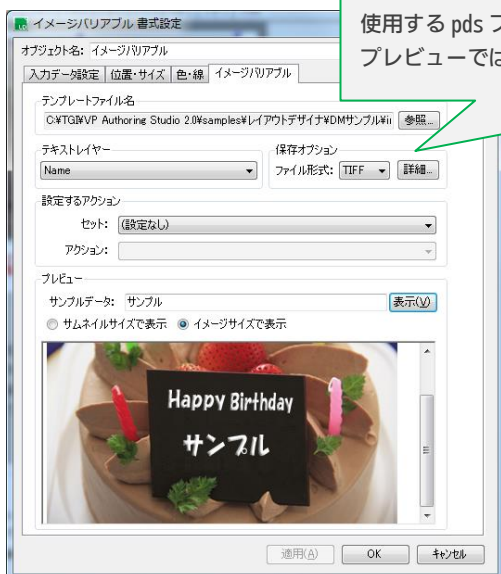
グラフで指定する入力データは1項目内に”データの区切り文字”で指定した値で区切られたデータが設定されている必要があります。今回の場合、以下のようなデータが必要となります。



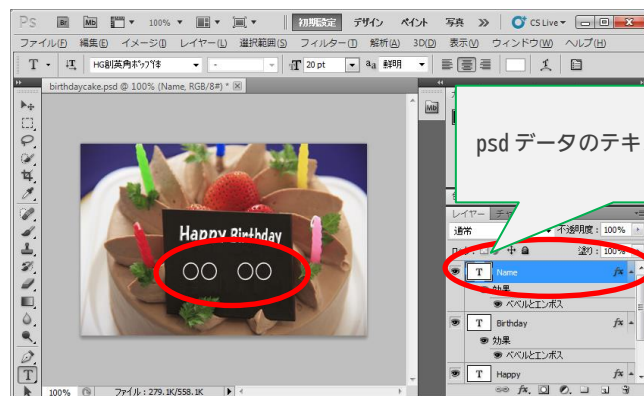
括弧文字内でデータが”,” (カンマ)で区切られたデータを設定します

(4) イメージバリアブルオブジェクト ※このオブジェクトはオプション機能となります

イメージバリアブルでは photoshop と連携しテキストレイヤーに可変データを設定することでバリアブルイメージを作成することができます。



使用する pds ファイルとテキストレイヤーを選択します。  
プレビューではサンプルデータを入力してサンプルイメージを生成できます。



psd データのテキストレイヤー



## (5) 図形 (楕円、四角形、罫線) オブジェクト

図計オブジェクトでは図形の印字を行うことができます。また、条件判定を行うことができますので条件に応じて表示/非表示の設定ができます。

ここでは楕円オブジェクトでの設定を説明します。

オブジェクト名: 楕円(昭和)

入力データ設定 | 位置・サイズ | 色・線

指定切替

- 入力データを指定しない
- 入力データを指定する

入力データ出力パターン

全てのページに出力する

入力フィールド設定

フィールド選択

- 楕円(昭和)

追加 変更 削除 生成

データ変換設定

追加 変更 削除 編集

データ変換動作設定

変換結果を順次引き継ぐ

テーブル検索動作設定

データ変換の前に検索

追加 変更 削除 編集

値を判定して印刷時の出力有無を設定する

入力データが 昭和 と

- 一致する
- 一致しない

場合

- 出力する
- 出力しない

この場合、指定フィールドに”昭和”とは言っていた場合のみ楕円オブジェクトが表示されます。

## 5. グループ面付け

VPAS2 では、印字する項目をグループ化して 1 ページに複数印字する簡単なグループ面付け設定が可能です。  
 ここでは入力ファイルのデータ構成に応じたグループ面付けについて説明します。  
 今回は 1 ページに印字するグループ面付けが横 3 面、縦 2 面の 6 面を印字する設定にします。

(1) 入力データの 1 レコードを 1 ページに印字する場合 (入力データが 1 ページ=単一レコード構成の印字設定)

(a) 入力ファイルの内容

D:\\*検証プロジェクト\*サンプルプロジェクト\_グループ面付け\*入力ファイル\*入力ファイル(単一).txt - 秀丸

ファイル(E) 編集(E) 表示(V) 検索(S) ウィンドウ(W) マクロ(M) その他(O)

入力ファイル(単一).txt

1	データ 1,	データ 2,	繰り返し 1-1(テキスト),	繰り返し 1-2(イメージ),	繰り返し 2-1(テキスト),	繰り返し 2-2(イメージ),	繰り返し 3-1(テキスト),	繰り返し 3-2(イメージ),	繰り返し 4-
2	A,	0001,	0000001,	版下_20.pdf?1,	0000002,	版下_20.pdf?2,	0000003,	版下_20.pdf?3,	0000004,
3	B,	0002,	1000001,	版下_20.pdf?1,	1000002,	版下_20.pdf?2,	1000003,	版下_20.pdf?3,	1000004,
4	C,	0003,	2000001,	版下_20.pdf?1,	2000002,	版下_20.pdf?2,	2000003,	版下_20.pdf?3,	2000004,
5	[EOF]								

1 ページにグループ面付けするデータが 1 レコードに 6 面が構成されているデータになります

(b) 入力フィールドの設定

VP Authoring Studio II - 可変データ定義ツール - [入力フィールド設定]

グループ面付けで印字する項目を繰り返し設定します。

名称	回数	必須チェック	空白除去	ゼロ除去	オプション
データ1	1	(しない)	(しない)	(しない)	設定
データ2	2	(しない)	(しない)	(しない)	設定
繰り返し1-1(テキスト)	3	(しない)	(しない)	(しない)	設定
繰り返し1-2(イメージ)	4	(しない)	(しない)	(しない)	設定

6 面分の設定のため 6 を設定します

繰り返しフィールド設定 (R...)

回数 6

繰り返しフィールド設定 (R...)

条件式 (指定しない)

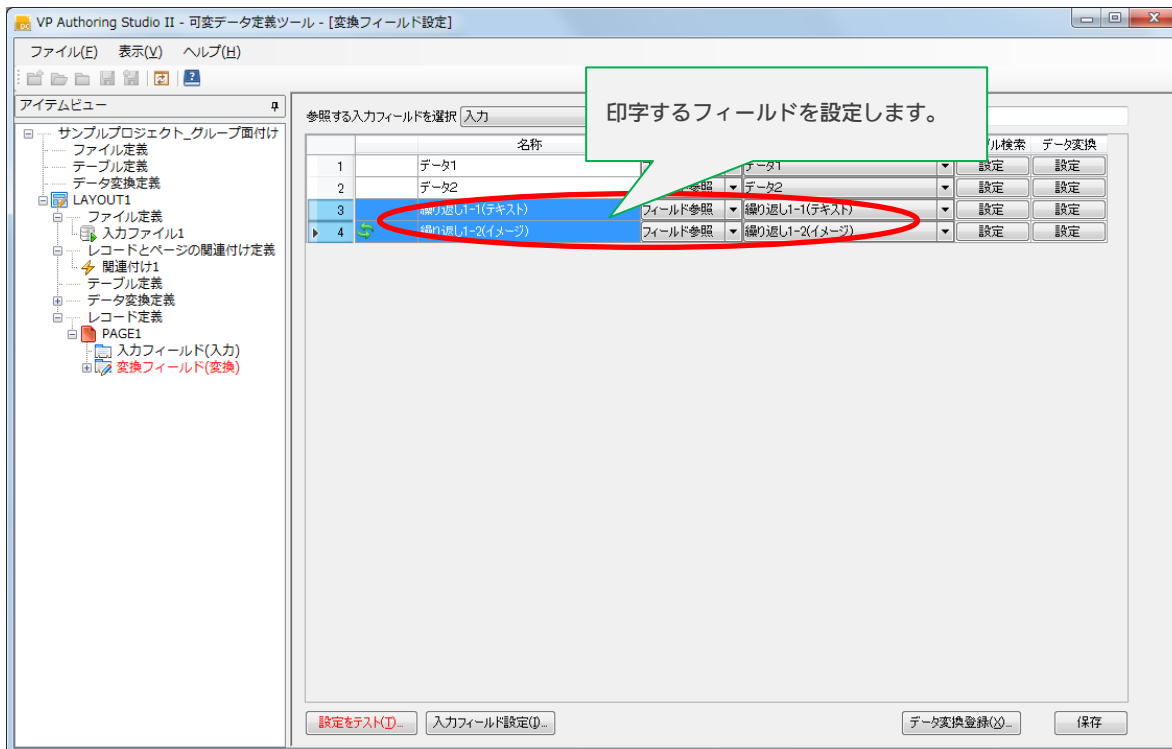
参照フィールド 繰り返し1-1(テキスト) 条件値

開始位置 文字数

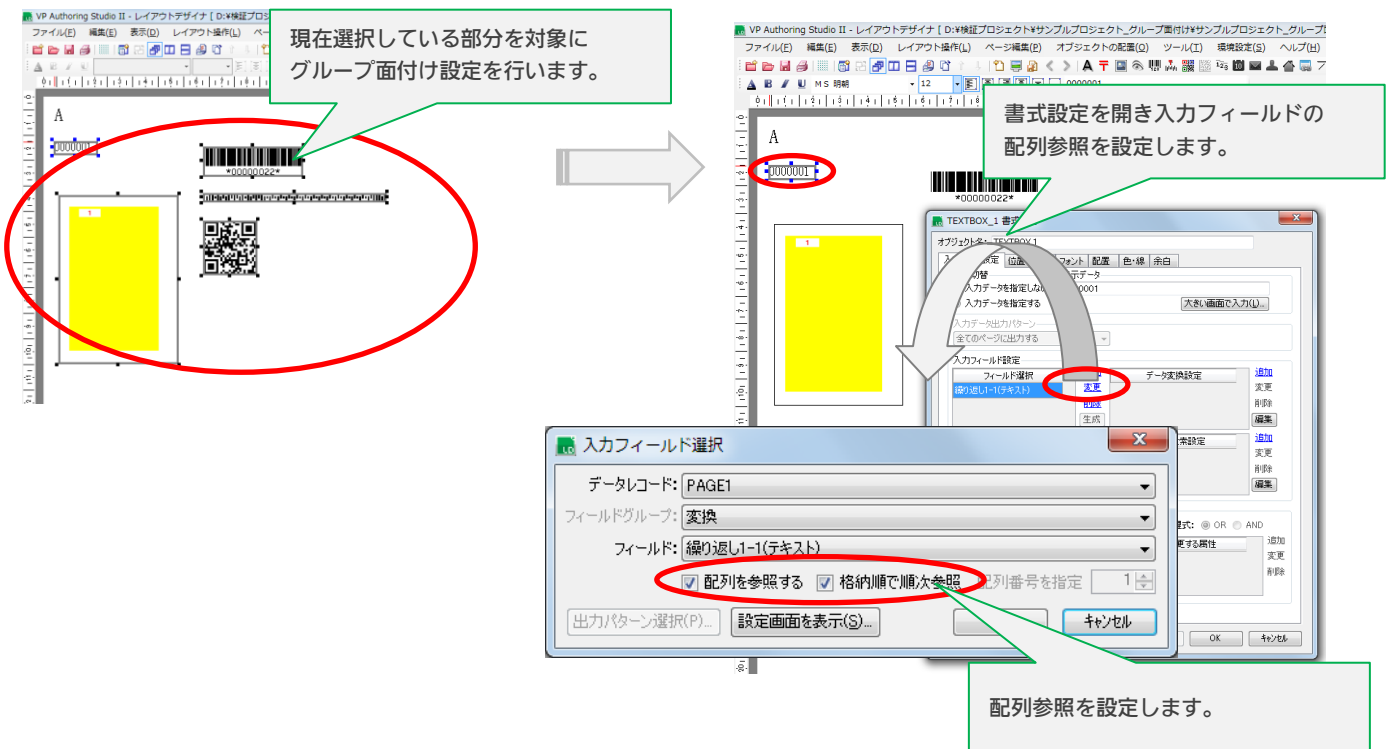
OK キャンセル

設定をテスト(T) 入力フィールド設定(E) 交換フィールドを追加(O) 再表示(B) 並び替え設定(S) 保存

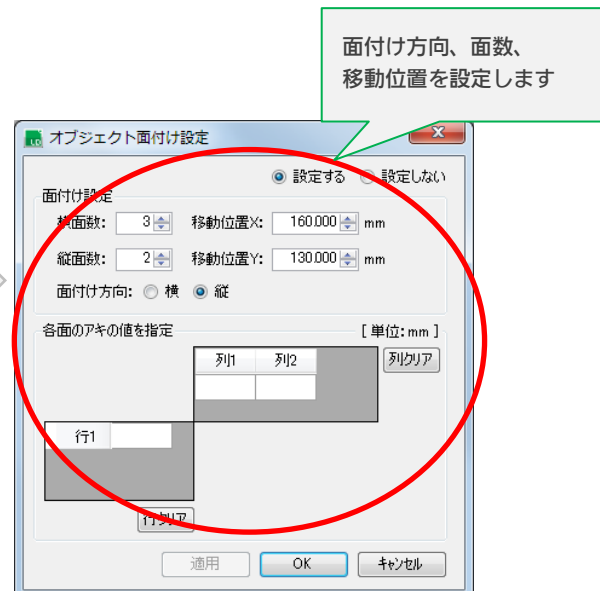
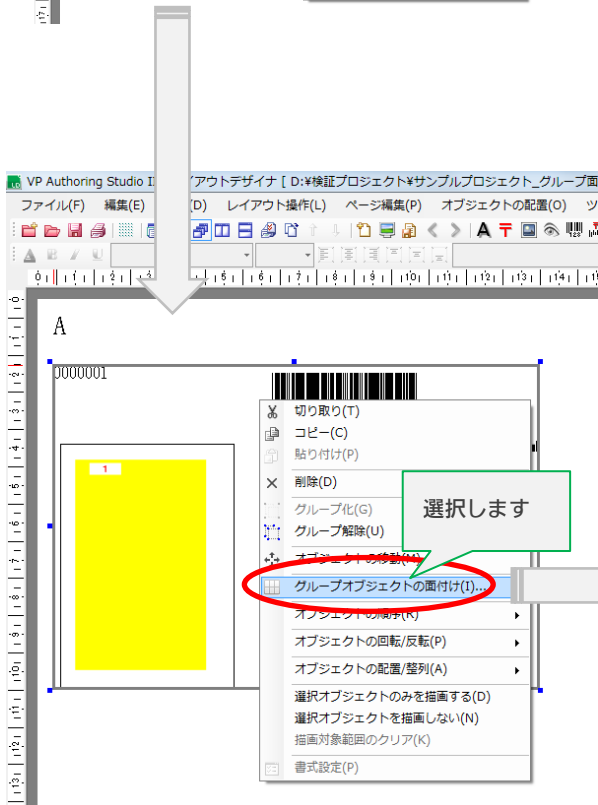
(c) 変換フィールドの設定



(d) レイアウトの設定

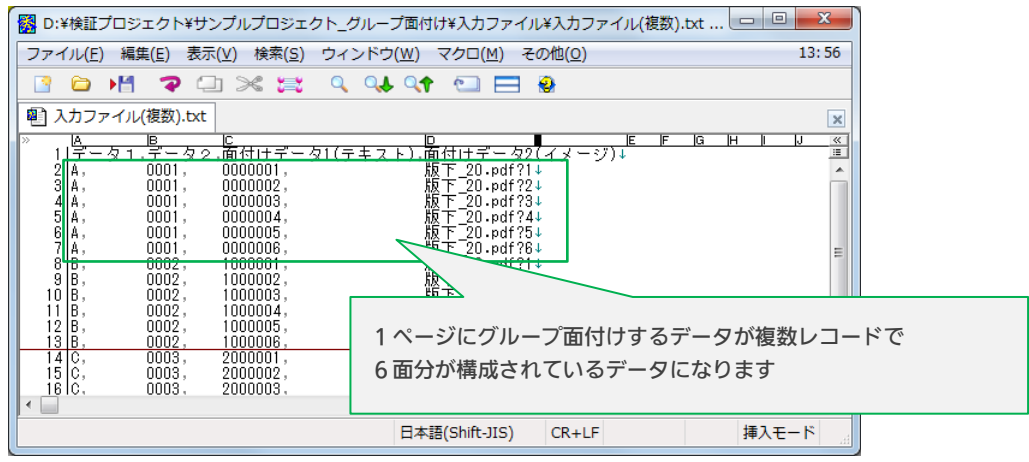


グループ面付けを行う全てのオブジェクトに対して配列参照が設定できたら対象オブジェクトを範囲選択し右クリックメニュー「グループ化」を行いその後「グループオブジェクトの面付け」を行います。

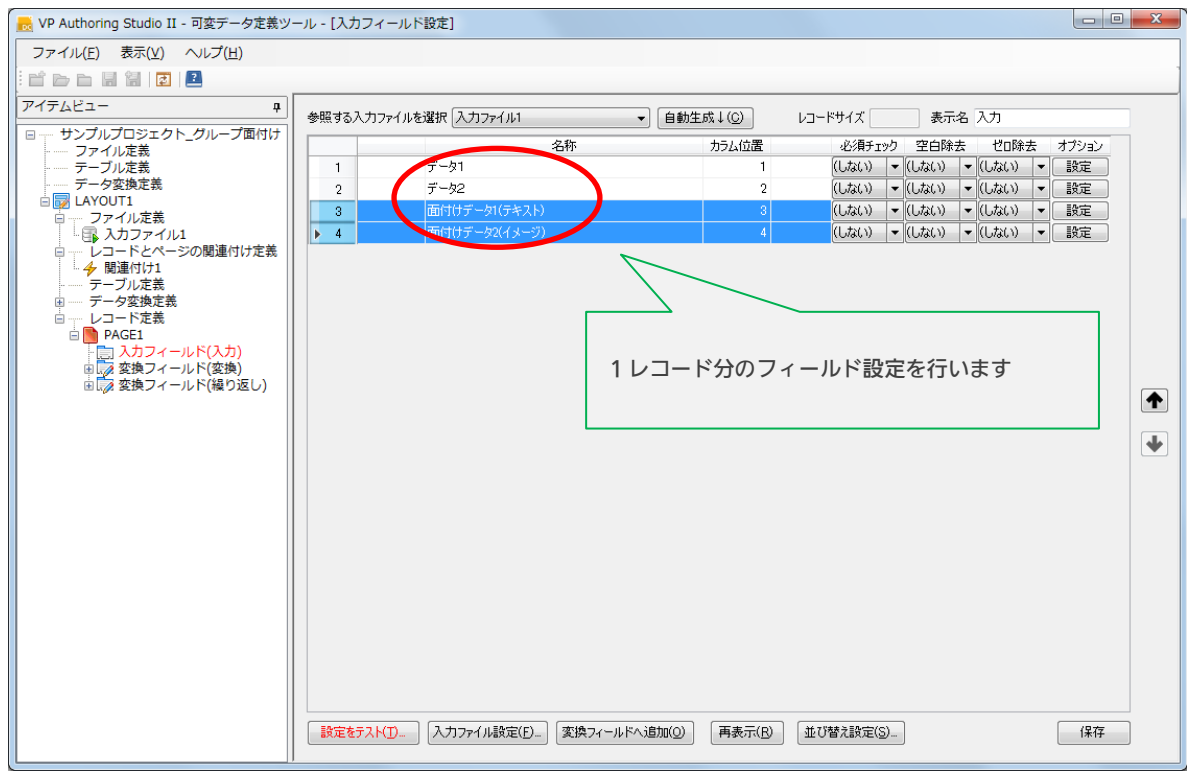


(2) 入力データの複数レコードを1ページに印字する場合 (入力データが1ページ=複数レコード構成の印字設定)

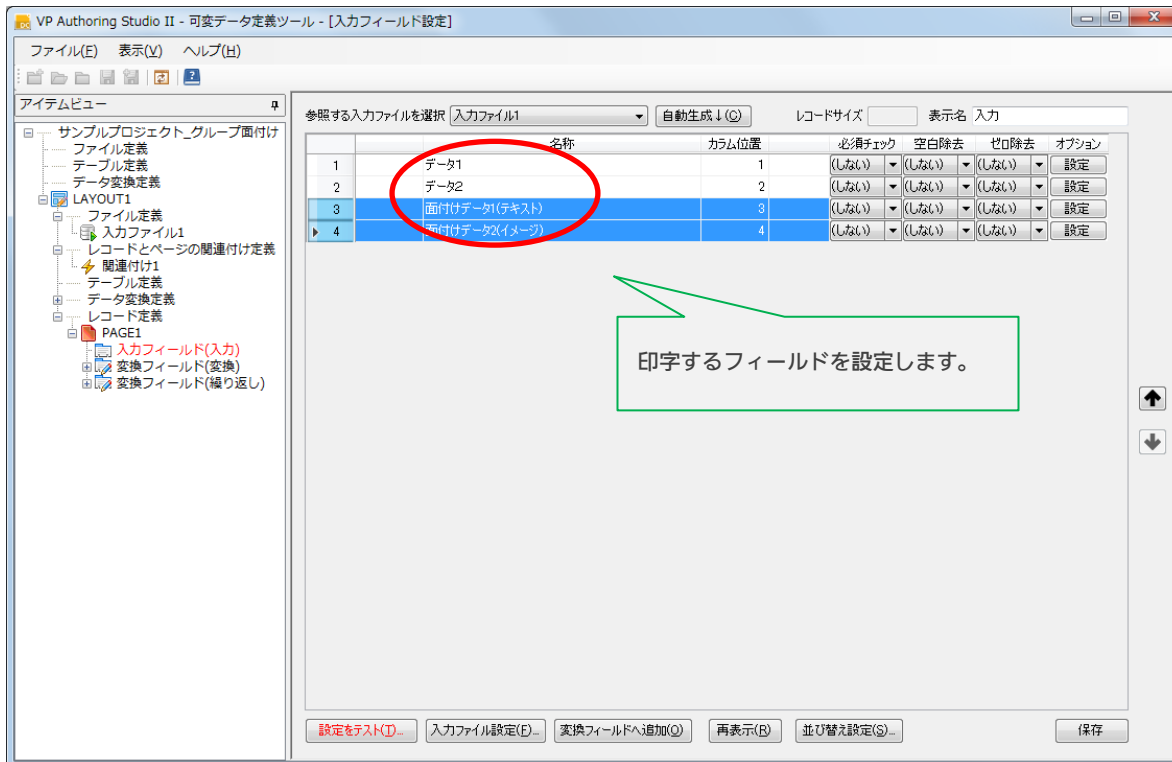
(a) 入力ファイルの内容



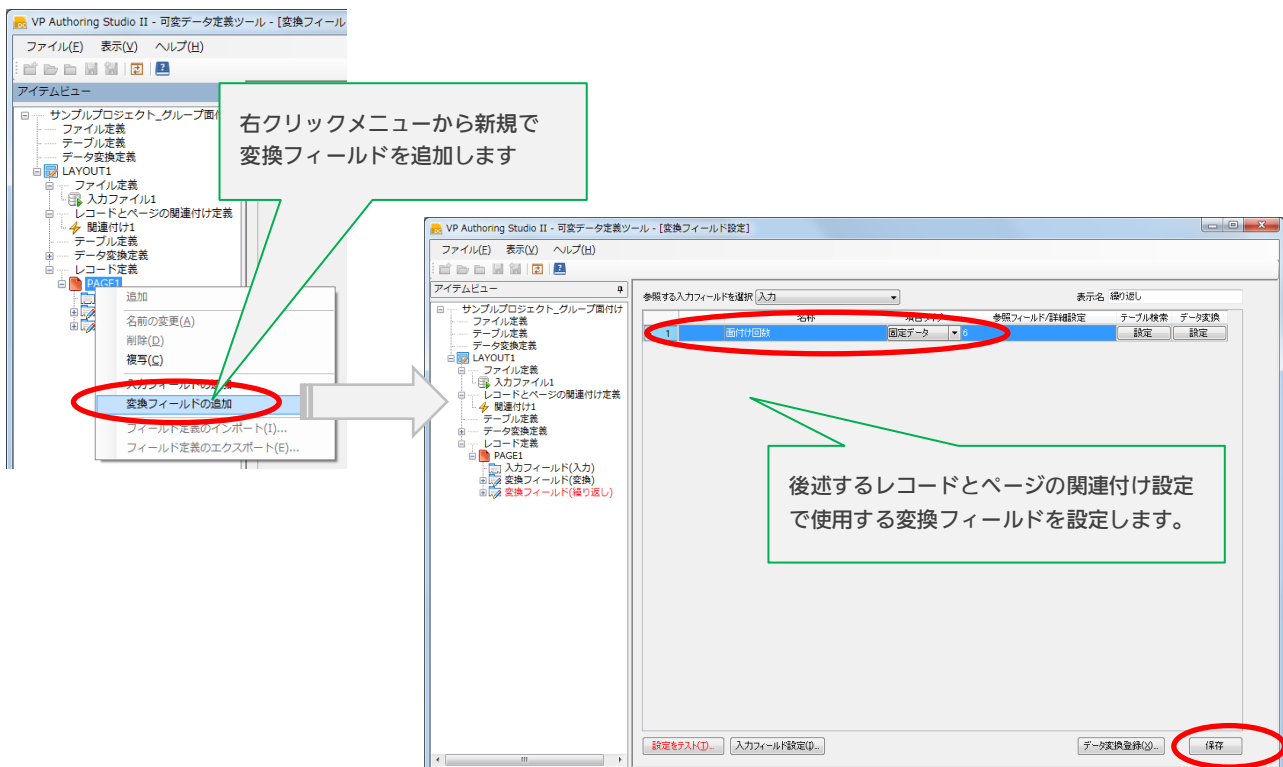
(b) 入力フィールドの設定



(c-1) 入力フィールドの設定 (印字の変換フィールド)



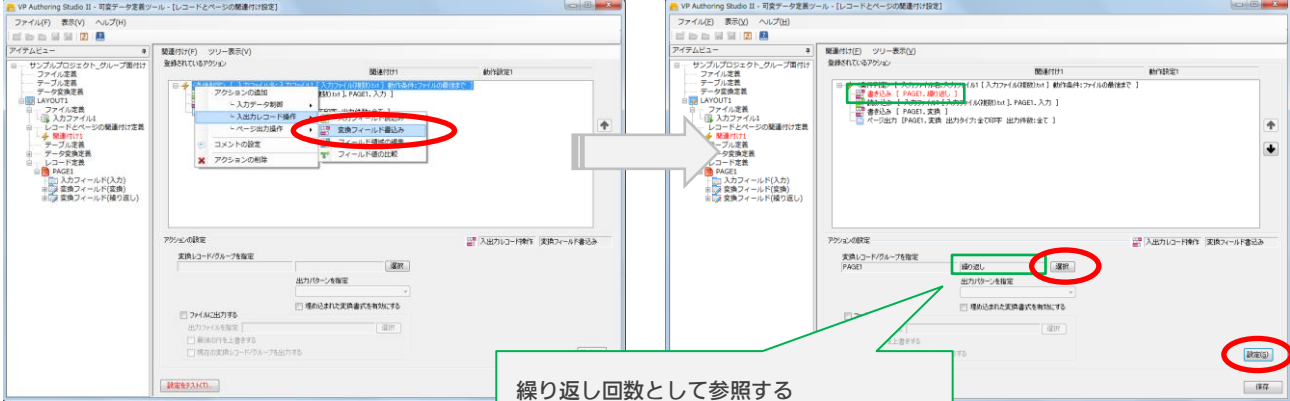
(c-2) 入力フィールドの設定 (面付け印字制御用の変換フィールド)



(d) レコードとページの関連付け設定

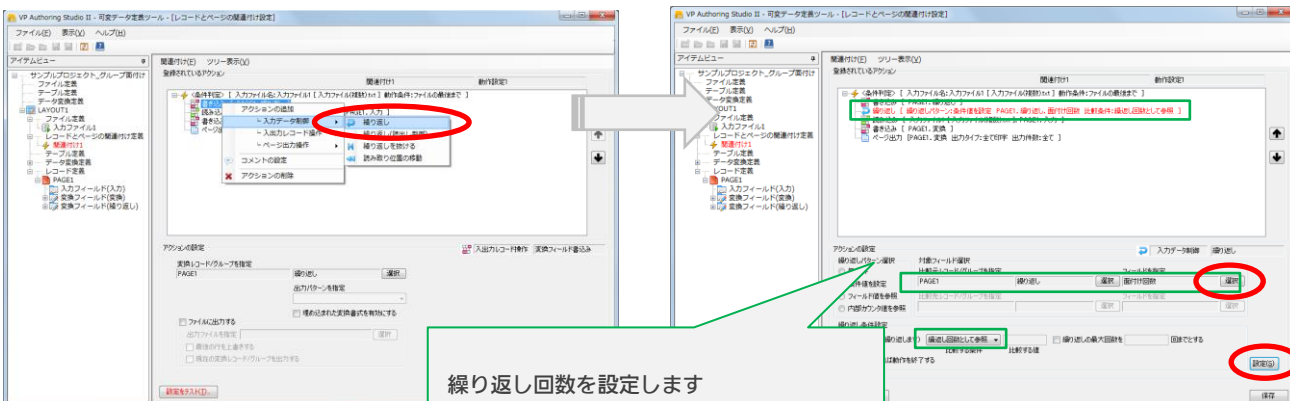
関連付けの設定で繰り返しアクションを使用しレコードを繰り返して読み込み・書き込み処理を行い1 ページに印字するデータのレコード制御を行います。

繰り返し用の書き込みアクションの設定



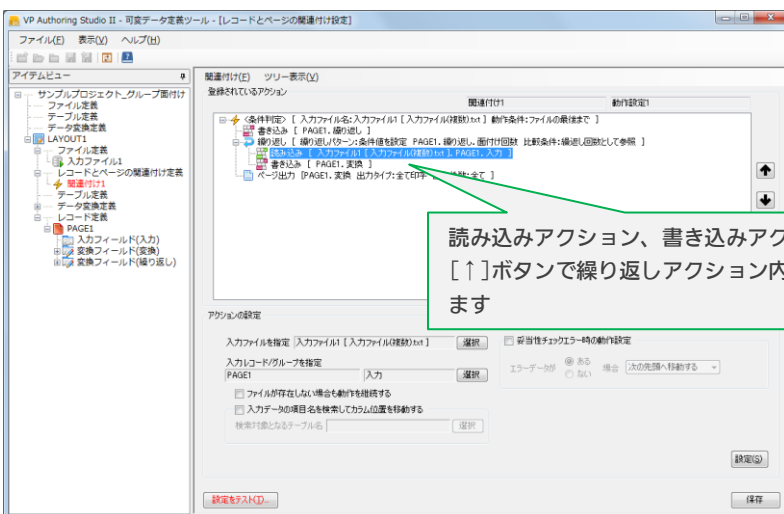
繰り返し回数として参照する  
変換フィールドの書き込みを行います。

繰り返しアクションの設定



繰り返し回数を設定します

読み込みアクション・書き込みアクションの設定



読み込みアクション、書き込みアクションは  
[↑] ボタンで繰り返しアクション内に設定します

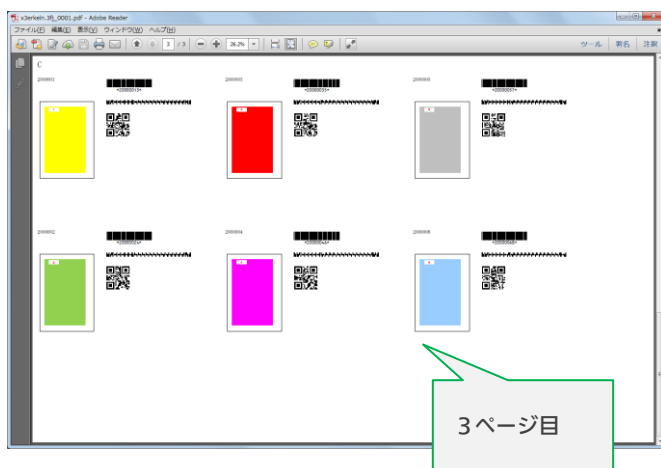
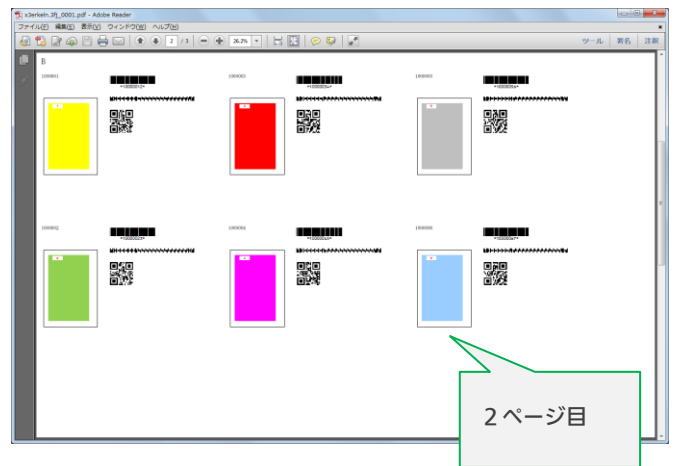
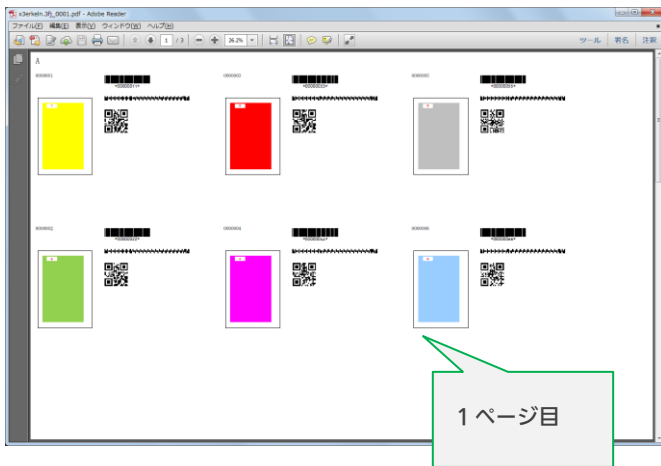
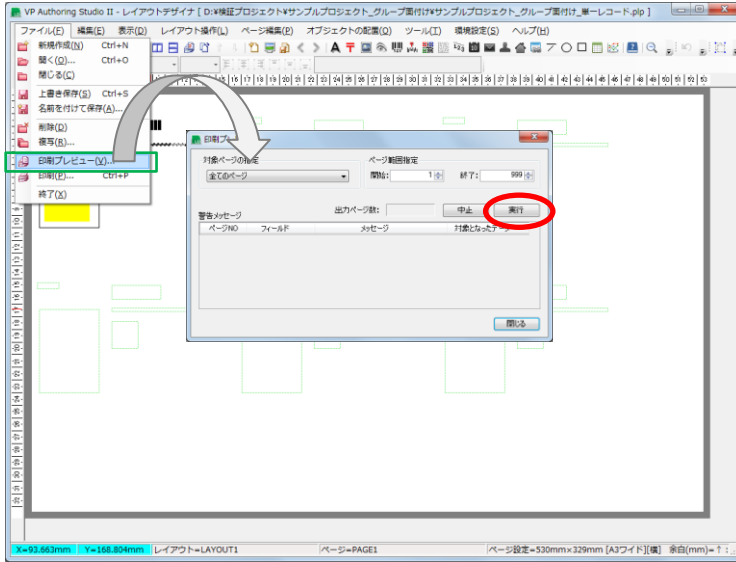
(e) レイアウトの設定

※レイアウト設定の操作については前述しました (1) の “(d) レイアウト設定” と同じです。

(d) レイアウト設定を参照ください。

(3) プレビュー表示

グループ面付けの設定ができましたらプレビューにて確認します。





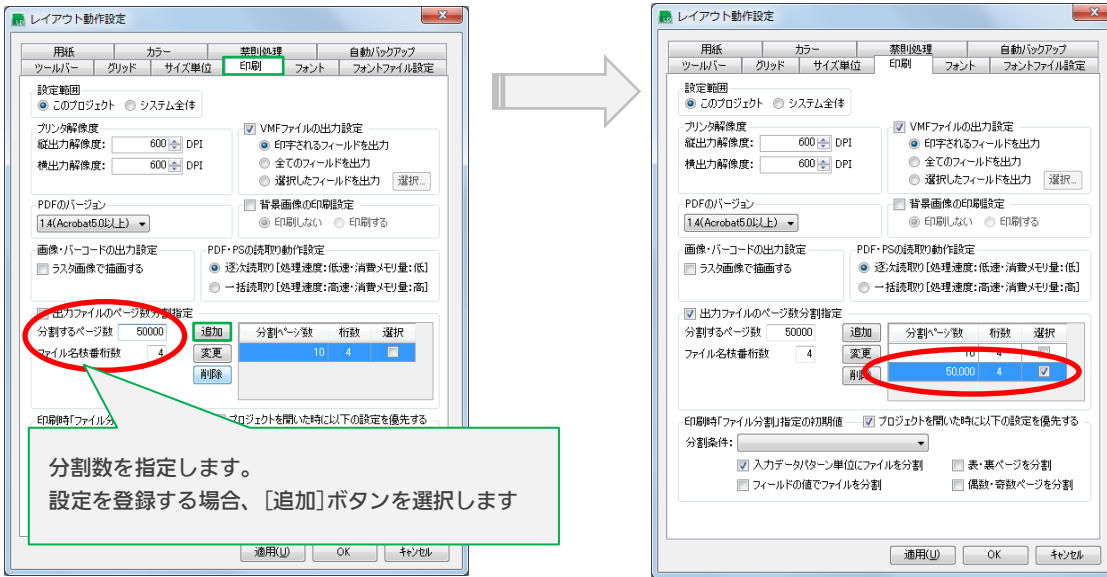
## 6. PDF 分割方法

VPAS2 では、出力する PDF をページ数やファイル単位などに簡単に分割を行うことができます。  
ここでは 3 種類の分割について説明します。

### (1) ページ数での分割

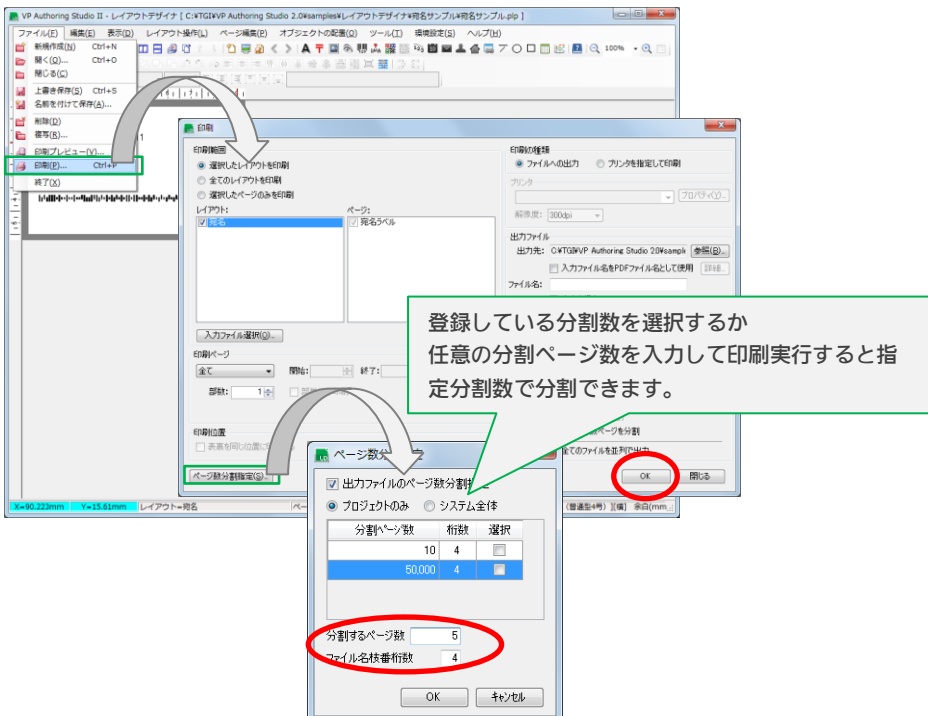
ページ数でのファイル分割はデフォルトで設定されています。設定は環境設定にありシステム共通とプロジェクト個別に設定できます。ページ分割は複数の設定を登録できますので運用に合わせて分割数を切り替えて使用することが可能です。

#### ●環境設定

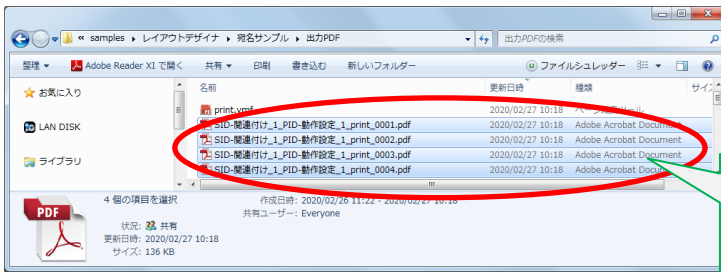


#### ●印刷画面

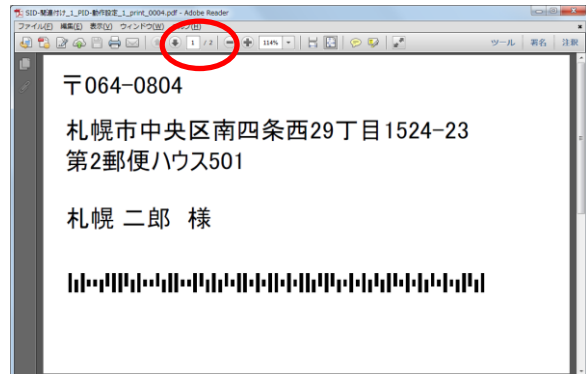
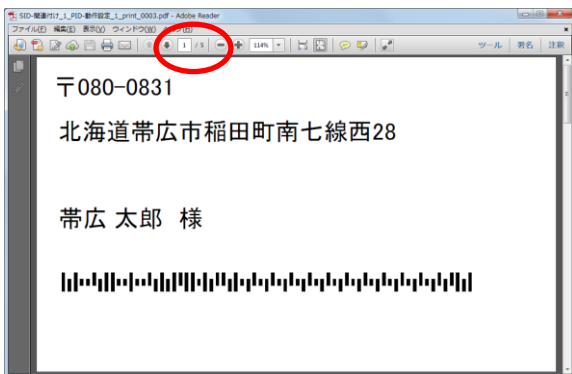
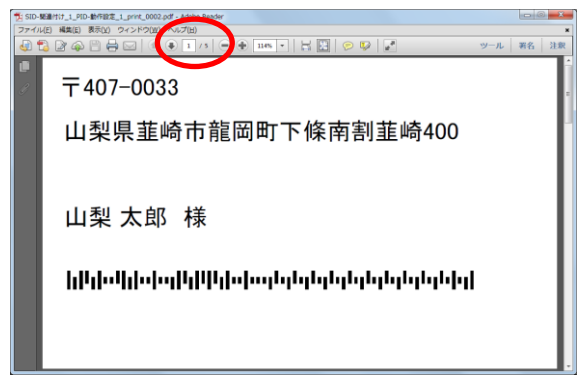
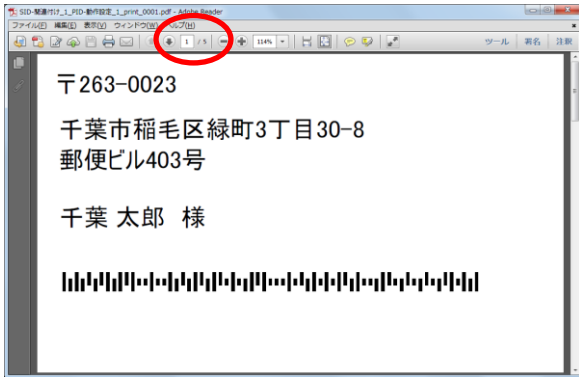
ページ分割数は印刷実行前に印刷画面の[ページ数分割指定]ボタンから変更することもできます。



印刷画面のページ数分割指定で設定したページ分割数=5、ファイル名枝番桁数=4の出力結果になります。



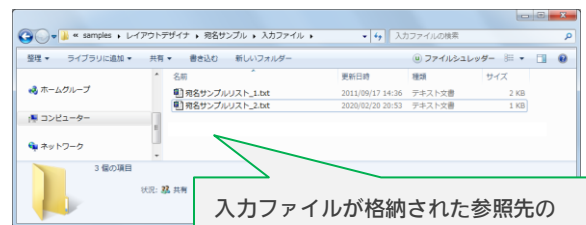
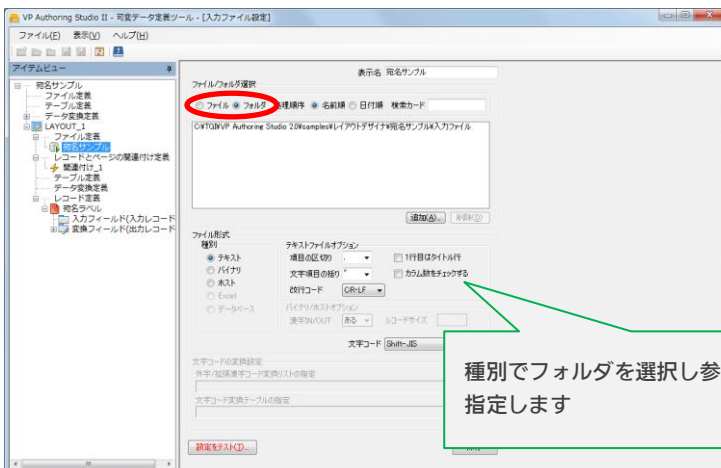
指定ページ分割数単位に PDF が出力されます



(2) 入力ファイル別に分割

入力ファイル別の分割は印刷画面から設定することができます。今回は入力ファイルとレコードとページの関連付けをフォルダ指定に設定しファイル単位に出力する操作を説明します。

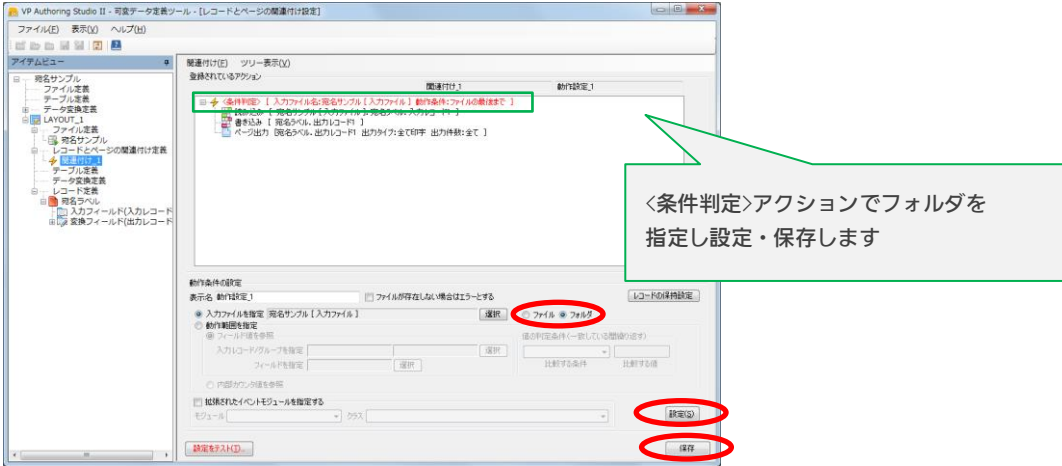
●入力ファイル設定



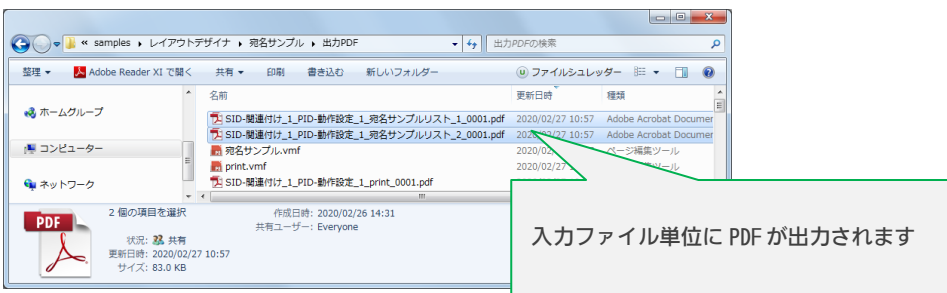
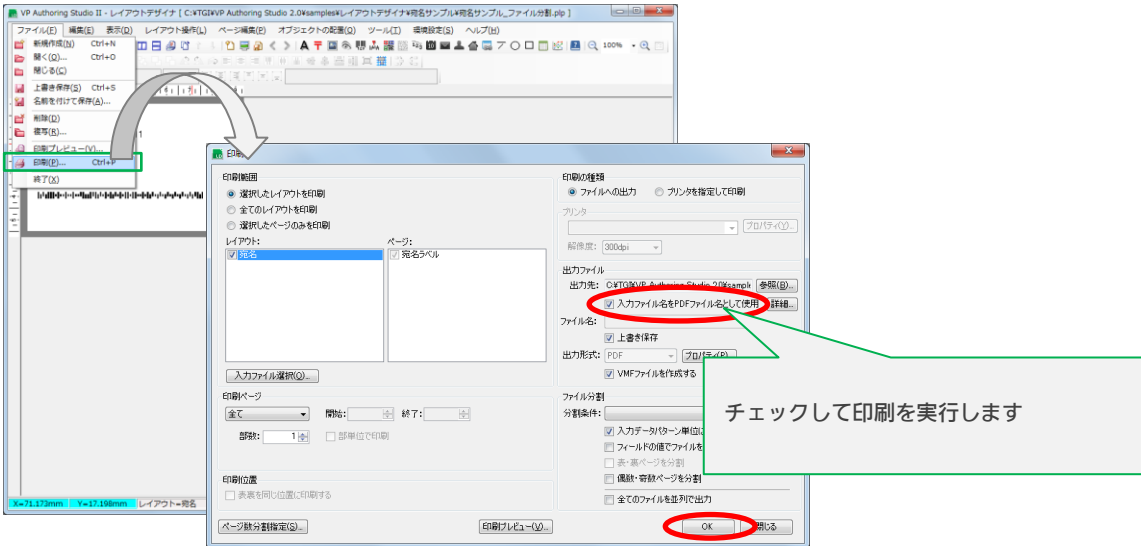
入力ファイルが格納された参照先のフォルダ

種別でフォルダを選択し参照フォルダを指定します

●レコードとページの関連付け



●印刷画面



(3) フィールド値を参照した分割

フィールド値を指定した分割は印刷画面から設定することができます。指定したフィールドで発生した値の数だけ PDF ファイルが分割されます。

●印刷画面

